

農村部（藍田県・中国西安）における高齢者の住居に関する考察

日大生産工(院) ○李慧娟 日大生産工 山岸輝樹
日大生産工 広田直行 西安工程大 段煉孺 日大生産工(非常勤) 布野修司

1. まえがき

近年中国の農村部では高齢化が進行しつつ、人口流出の影響を受け、農村部の「独居老人」や「空巢老人」の世帯が急速に増加している。一方で農村部であっても中心地域は耕地がなくなり、集合住宅が建設され、都市化が進んでいる。家族形態が変わり、高齢者、特に「独居老人」や「空巢老人」にそれぞれの不適応な居住課題が顕在化している。本稿では、農村部における村（社区）の高齢者の住居に関する問題点を明らかにすることを目的とし、特に調査対象の住居の特徴の違いについて考察を行う。

2. 調査概要

調査対象としたのは、藍田県の2つ鎮（街道）における1つ「都市化型」の社区（④）、鎮中心とする「平地型」（①）、「山谷型」（②）と「河谷の段丘型」（③）3つの村である（Fig.1）。調査は、以下のa)～c) からなる。

a) 村（社区）居民委員会管理センター調査：村人口、高齢者人口、サービス内容などに関するヒアリング調査。b) 高齢者へのインタビュー調査：高齢者のプロフィール（年齢、性別、職業、同居人数、同居関係など）居住実態（所有形態、建設年代、階数、居住年代、住宅使用と不便など）c) 住宅実測調査：間取り、室内家具配置など。調査は、2018年6月19日～2018年6月25日に行った。

高齢者へのインタビュー調査は居民委員会の協力によって、各村（社区）から60歳以上の高齢者25～35人を選定し、普化鎮64人（①38、②26）、藍関街道77人（③39、④38）、計141人であり、そのうち74戸住居を実測調査した。

3. 調査対象の概要

藍田県は、河谷の段丘、台地、山谷地の丘陵地形からなる。1つの街道、18鎮、9つの社区、337個行政村である。藍田県の戸籍人口は65.5万人、高齢化率は17.1%である。

各村（社区）の面積、戸数、人口密度、高齢者（60歳以上）人口等は表1に示すとおりである。高齢化率は10.1～17.4%で、西安全体の16.4%より高いのは、鎮の中心地域とする村①

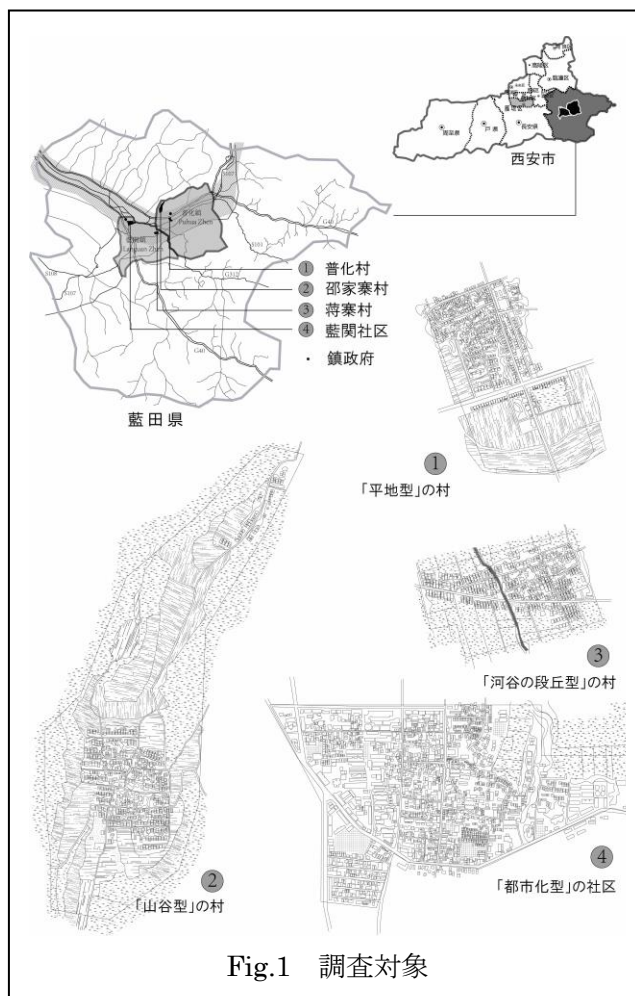


Fig.1 調査対象

表1 居住環境に関する問題点

鎮（街道）	普化		藍関	
Village (Shequ)	Puhua ①	Shaojia ②	Jiangjiazhai ③	Languan ④
村（社区）面積 km ²	0.46	1.2	1.9	2.0
農耕地 0.33	農耕地 0.78	農耕地 1.23	農耕地無し	
戸数	271	306	627	2329
人口数	1069	1330	2333	5630
人口密度 P/ha	23.2	11.08	12.3	28.15
高齢者人数 (p)	186	209	235	788
高齢者率 %	17.4	15.7	10.1	14.0

である。「都市化型」社区④には農耕地がなくなり、また「平地型」村①は街道（鎮）の行政、商業などの中心になり、人口密度が高い。「山谷型」村②、「河谷の段丘型」村③は農地が広い地域であり、人口密度が低く、特に村②では60歳以下の労働力人口185人しかいない。

Considerations on Dwelling For Elderly People in village Lantian District Of XI'AN

Huijuan LI, Teruki YAMAGISHI, Naoyuki HIROTA, Lianru DUAN and Shuji FUNO

4. 高齢者の基本属性

調査対象高齢者の年齢は60歳～95歳で、平均年齢は72.8歳、平均居住年数は35.4年である。社区④には42.1%の高齢者は国営企業の退職員であり、農業をするのは18.4%に占め、無職や民営企業や個人営業する人がそれぞれ10%左右に占めている。村①②③には農業をするのが85%以上になるが、特に村②が山谷型の村のため96.2%以上の人は農業を就業する。

家族人数は1～10人であり、「独居老人」Sは17世帯（12.1%）、「夫婦のみ」Dは52世帯（36.9%）、「空巢老人」S+Dは49.0%である。村②③には「空巢老人」とも60%以上になる。（Fig.2）

5. 住居について

調査対象高齢者の住居の建設年代（全141戸）をみると（Fig.3）、90年代に建てられた住宅が最も多く55戸（39.0%）、特に社区④（63.2%）である。村①には1980年以前と90年代に建てられる古い住居が多い。村②には2000年以降に建てられるのが半になる。

エレベーターのない4～6階の中層集合住宅で18戸（12.8%）ある。1～3階の戸建て住宅は123戸（87.2%）で、社区④に21戸あり（55.3%）、村①には集合住宅が1戸あり（2.6%）、村②③には全て戸建てである（Fig.4）。

住居について問題を感じている高齢者は105人（74.5%）で、指摘されているのは自宅内で暖房がないという問題が最も大きく、社区にも10戸あり、村には27戸ある。社区と村の戸建てには浴室とトイレがないことが多い。村にはインフラが整備されておらず、井戸の水を利用している実態がある。古い土木構造で建てられた建物のうち、9戸は水漏れの問題が指摘された。（Fig.5）

6. まとめ

人口密度が高い農耕地がなくなる「都市化型」社区④には55.3%の戸建てがあり、トイレや浴室がないこともある。44.7%の4～6階の集合住宅にはエレベーターがなく、水道や電気などの設備の老朽化が主な問題である。

鎮の中心とする地域「平地型」村①には老朽化している建物が多く、建て替えられることも多い。集合住宅が浮き彫りになっている。「空巢老人」が一番少なく二、三世代一緒に住むことが多い。

「山谷型」村②、「河谷の段丘型」村③は主に農業であり、人口流出のため「空巢老人」が村①より3倍になっている。村②は2000年以

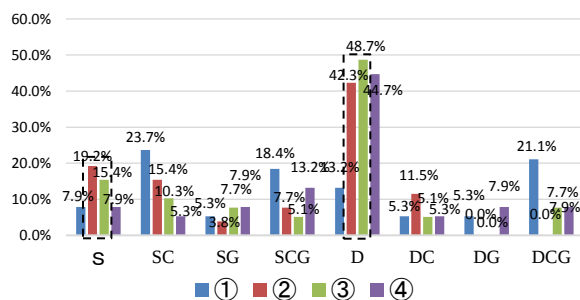


Fig.2 家族形態

注：「独居老人」(S)、「独身老人+子供」(SC)、「独身老人+孫のみ」(SG)、「独身老人+子供+孫」(SCG)、「夫婦のみ」(D)、「夫婦+子供」(DC)、「夫婦+孫のみ」(DG)、「夫婦+子供+孫」(DCG)

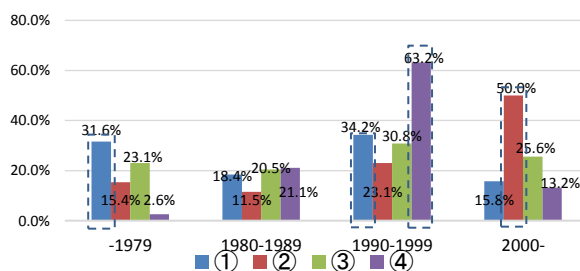


Fig.3 建築年代

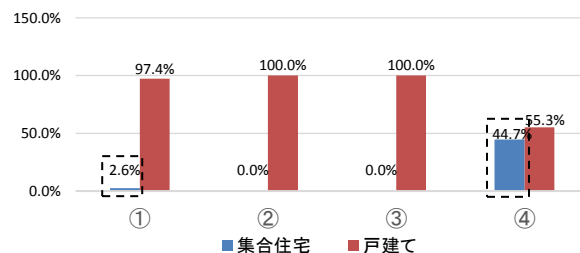


Fig.4 住居形態

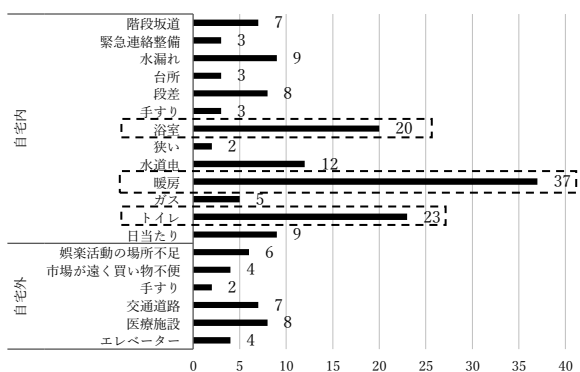


Fig.5 住環境に関する問題点

降建てられた住居が多く、山の坂道があるため住居において階段の問題が増えている。

社区と村①②③での戸建てにはトイレ、暖房、浴室のないことが共通の大きな問題点である。

今後の研究は住居の空間について高齢者の自立度により、基本行為とする食事、排泄、入浴、移動、就寝の五つの生活行為で問題点を明らかにする。